

瑞 牆 山



瑞 牆 山

日 時 : 2018年8月18日(夜)～8月18日

メンバー : 福澤 卓三

コースタイム :

8月18日(土) 新宿(7:00)－(8:37)葦崎(8:50)－(9:50)瑞牆山荘(10:00)－
(10:50)富士見平小屋(11:05)－(11:35)天鳥川源頭(11:45)－
(13:50)瑞牆山(14:10)－天鳥川源頭(15:30)－富士見平小屋(16:20)－
(17:00)瑞牆山荘(17:50)－タクシー葦崎

新宿駅を出発間際になると、ホームに登山客が増えて特急がほぼ満員になった。韭崎ではあまり降らないようであったが、バス停には登山客が大勢並んでいて、臨時便が先に出て、それに乗り登山口の瑞牆山荘に予定より少し早く着いた。

パッキングをし直してすぐに出発。広めでなだらかな樹林帯を詰めていき、落ち葉に埋もれかけた道路を横切り、向こう側がみえるところまで登ると、大きな岩峰群が空に向かっていているような山頂が見える。そこからもなだらかな登山道を瑞牆山荘からワンピッチも上ると富士見平小屋が見えてくる。金峰山と瑞牆山を登るのかテント場にいくつかのテントがはってある。



富士見平小屋とテント場

この小屋で瑞牆山と金峰山に行くルートにわかれる。稜線の下をトラバスして半ピッチほど下ると、天鳥川の源頭に出る。雨降った後なのか、高度の割には水量が多い。一休みするのによいところである。すぐ上に大きな岩が半分に分かれた桃太郎岩がある。ここから頂上まで2ピッチ程、ひたすら急峻な登山道を登る。



天鳥川源頭



桃太郎岩

桃太郎岩を過ぎ、少し登ると、沢のすぐわきを登るルートになる。その後は岩場の多いルートをひたすら右に左にルートをさがしながら登る。岩場をフリクションをきかせたり、スタンスをさがしながら、岩と岩の間を通ったり、くぐったり暑さにもやられて結構消耗する。

2ピッチ近くストレスを感じながら登ると、大きな岩が見えてきて頂上に近いことを教えてくれる。下ってくる人たちが頂上は天気が良く最高です。頑張ってとはげましてくれる。

最後に梯子を上り頂上に出た。



天気は最高。360度のパノラマである。



頂上から見える岩峰群



福澤会員

日帰りでタイトであったのと膝が痛くのんびりと下ったので、最終バスにのれなくてタクシーで
葦崎に帰りその日のうちに我が家にもどった。



富士見平小屋と天鳥川源頭の間には小川山に行くルートがあるが、あまり使用されていないようである。